

会員各位

令和3年8月27日

一般社団法人 東京産婦人科医会

山田正興

### 新型コロナウイルス感染急拡大下で妊婦さんを守るために

新型コロナウイルス感染が若年者を中心に急速に拡大し、妊婦の感染も増えています。特に妊婦は妊娠後期に重症化することもあります。自宅療養せざるを得ない状況にもあります。

このような状況を考え、医会として会員の皆様に以下のようなお願いを申し上げます。

#### 1. コロナ感染陽性妊婦の健康観察及び相談業務のお願い

8月23日には日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会から自宅療養中のコロナ陽性妊婦に対する健康観察の指針が示されています。この指針に沿い、地区医師会とも連携し、健康観察及び相談業務に積極的に従事して頂きますようお願い致します。

#### 2. 健康観察の重要性の再確認

自宅療養中の妊婦から、発熱や有症状の発作時にはかかりつけ産科医に早めに相談することなどを妊婦健診時にお伝え頂き、早め早めの対応を心掛けて下さい。

特に妊娠28週以降で、健康状態の悪化が見られた場合は、妊娠週数を明確に把握し保健所に伝えると共に速やかに地域の周産期施設と連携を取って下さい。

### 3. 東京都周産期医療ネットワークでの情報共有

コロナ感染の拡大を受けて、東京都が定めている周産期母子医療ブロック毎に緊急の協議会などを開催し、各ブロック内での情報共有を行って下さい。

### 4. 妊婦及び同居する家族にコロナワクチン接種の勧奨

妊婦がコロナに感染する場合の8割は、夫やパートナーからの家族内感染です。

妊婦健診等で新型コロナワクチン接種に積極的な勧奨をお願いします。

一方、地区医師会などに呼びかけ、地区行政に優先接種などのお願いをして下さい。

### 5. 高次医療施設から逆紹介のお願い

コロナ陽性妊婦が分娩を終えて症状が落ち着いている場合は、2次及び1次医療施設へ逆紹介による転院依頼を行う場合があります。高次施設の機能を守る意味からも逆紹介などにご理解を頂きますようお願い申し上げます。

なお、昨今の新型コロナ感染による周産期医療の逼迫を受けて、東京都へ8月26日に

東京都小池知事と直接面会し、緊急要望を行いました。(資料を添付します)

会員の皆様には、妊婦と胎児の命を守るため、今後ともご協力、ご支援を賜りますよう

よろしくお願い申し上げます。